# 令和6年度事業報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日まで

## 1　主な事業実績と成果

つみきハウス全体の令和6年度の収支決算は、まず、資金収支での事業活動の収入は、令和5年度131,026千円でしたが令和6年度144，300千円となり13,274千円増額となりました。

特に、収入が増加した就労支援事業収入は、パン・弁当・フード食品の販売先の拡大や新たな商品の開発、弁当の販売数の増加や地場産業（内職）等の請負先の増加によって、令和5年度27，409千円でしたが令和6年度は32，491千円となり、5，082千円の増収となりました。

支出は、令和5年度118,694千円に対し令和6年度は130,785千円となり12,091千円増額となりました。主な増額の要因は人件費支出で、令和5年度69，172千円でしたが令和6年度76，844千円となり7，672千円の増額となりました。処遇改善費が増額したことにより職員給与を昇給したことによるものです。

事業活動による資金収支差額は、令和5年度12,332千円が令和6年度13，515千円となり1,183千円の増額となりました。

次に、施設設備等の資金支出は令和5年度5，176千円でしたが令和6年度27，650千円となり22，474千円の増額となりました。大きな要因として、20年が経過したフードセンターとパン工房の統合改修工事や全館のLED照明入れ替え工事、配送・販売用の軽自動車の購入等によるものです。

つみきハウス全体の資金収支差額は、令和5年度7，585千円の黒字でしたが令和6年度2，515千円赤字となり10，099千円減額となりました。

事業拠点区分別では、就労事業では5，440千円マイナス、グループホーム事業では11千円マイナス、サポート・相談事業では2，936千円黒字となり、全体では2，515千円の赤字となりました。

福井大学医学部等との連携事業は、3年が経過し、ディッシュクックによる食事提供や体力づくりを行った結果、健康診断で良い効果が出ています。これからも利用者の健康管理に積極的に取り組みます。また、高齢者宅へのディッシュクックの配食サービスを試験的に行いましたが、事業化するには課題が多い結果となりました。

就労部門では、「業務・工賃向上プロジェクト会議」を定期的に開催し、利用者が楽しく充実して働くことが出来るように、収益が上がるように検討を加え、令和6年度は収益が増加し、工賃を増額することができました。

職員の資質の向上と人材育成については、様々な外部研修へ積極的に職員を派遣するとともに、虐待防止対策等の内部研修を行い職員の資質の向上を図りました。

令和6年度は、大規模な改修工事を行った為、最終的には2,515千円の赤字となりましたが、つみきハウスの今後の安定した運営・発展に向けた設備投資・環境整備を進めた重要な1年となりました。

## 2 法人本部事業実績

（1）理事会の開催状況

| | |
|---|---|
| ・　令和6年5月1日（水） | ①副理事長の選任<br>②常務理事（業務執行理事）の選任<br>③評議員選任・解任委員の選任<br>②令和5年度決算の承認及び監査報告<br>③令和6年度6月補正予算（案）の承認<br>④第1回評議員の招集 |
| ・　令和6年9月27日（金） | ①定款の改正<br>②グループホームの移転計画（案） |
| ・　令和6年12月18日（水） | ①令和6年度12月補正予算（案）の承認<br>②理事長の辞任<br>③理事候補者の選定<br>④新理事長の選定<br>⑤常務理事の選定（内定）<br>⑥臨時評議員会の招集 |
| ・　令和7年3月11日（火） | ①令和7年度事業計画（案）の承認<br>②令和7年度当初予算（案）の承認<br>③次期評議員の選任候補者<br>④評議員選任・解任の招集<br>⑤臨時（第3回）評議員会の招集 |

(2) 評議員会の開催状況

・ 令和6年6月20日(木)　①令和6年度6月補正予算(案)の承認
②令和5年度決算の承認及び監査報告
③令和6年度補正予算(案)の承認

・ 令和6年12月26日(木)　①令和6年度12月補正予算(案)の承認
②定款の改正
③理事の選任

・ 令和7年3月27日(木)　①令和7年度事業計画(案)の承認
②令和7年度当初予算(案)の承認

(3) 監査会の開催状況

・ 令和6年5月30日(木)　①令和5年度事業・会計監査

(4)経営企画会議の主な開催状況

・第1回　令和6年4月24日(金)　令和5年度決算について
・第2回～第7回　令和6年6月6日(木)～令和6年10月15日(火)　グループホームあおぞら2の移転について
・第8回　令和6年10月23日(水)　理事長の退任について
・第9回　令和7年1月28日(火)　令和7年度事業計画・予算書の作成について

(5)内部研修会の主な開催状況

・令和7年3月25日(火)　障害者虐待防止法の成立とその社会的意義
身体拘束等の適正化の推進

(6)外部研修会への主な派遣状況

| | | |
|---|---|---|
| ・令和6年6月10日～9月13日迄 | 相談支援従事者現任研修(4回) | 1人参加 |
| ・令和6年6月21日 | 小浜市わくわく手話教室 | 3人参加 |
| ・令和6年6月22日 | 就労支援に携わる支援者向け研修 | 5人参加 |
| ・令和6年6月26日・27日 | 福井県サービス管理責任者更新研修 | 1人参加 |
| ・令和6年7月2日・3日 | 強度行動障害基礎研修 | 2人参加 |
| ・令和6年7月20日～11月9日迄 | 福井県盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会(10回) | 2人参加 |
| ・令和6年8月8日～12月26日迄 | 小浜市手話奉仕員養成講習会(20回) | 2人参加 |
| ・令和6年9月5日 | 若狭福祉施設ビギナー職員のつどい | 1人参加 |
| ・令和6年9月17日 | ビギナースタート研修 | 1人参加 |
| ・令和6年9月25日 | 将来を見据えた社会福祉法人経営と事業展開のヒント | 1人参加 |
| ・令和6年10月17日 | 新処遇改善加算取得の為の賃金体制(就業規則の整備) | 2人参加 |
| ・令和7年2月1日 | 就労支援勉強会 | 1人参加 |
| ・令和7年3月1日～3月21日迄 | 同行援護従事者養成研修(5回) | 1人参加 |
| ・令和7年3月10日 | 地域生活支援拠点等の整備についての研修会 | 2人参加 |

## 3　就労継続支援B型事業所　事業実績と成果

（1）主な事業成果と課題

就労継続支援B型事業全体の資金収支の事業活動収入は、令和5年度75,669千円でしたが令和6年度88,733千円となり、13,064千円の増収となりました。

この内訳は、まず、就労支援事業収入は令和5年度28，842千円でしたが令和6年33，902千円となり、5,060千円の増額となりました。これは、弁当（給食）事業の弁当販売数が前年度より大きく増加し、売上収入は4，459千円増収となりました。

次に、訓練等給付費収入は、令和5年度44，372千円でしたが令和6年度54，135千円となり9，763千円の増収となりました。前年度に利用者が一般就労へ移行した事による加算が増えた事と、利用者の就労日数が増えたことが増収につながりました。

支出については、令和5年度69，281千円でしたが令和6年度80，969千円となり11，688千円の増額となりました。

その要因として、人件費については、令和5年度30，087千円でしたが令和6年度38，029千円となり、7，942千円増額となりました。処遇改善費が増額したことにより職員給与を昇給したことによるものです。

就労支援支出については、令和5年度27，129千円でしたが令和6年度32，332千円となり5，203千円増額となりました。食品販売数が増えた事による仕入れの増加と原材料の高騰により支出が増えました。また、収益が増えたことにより、利用者の工賃を令和5年度と比べ577千円増額することができました。

事業活動資金収支差額は、令和5年度6，388千円でしたが令和6年度7，764千円とな1，376千円の増額となりました。

次に、施設設備等資金支出については、令和6年度26，114千円となりました。その内訳は、パン工房とフードセンターの統合工事、パン工房跡地駐車場整備工事、また、新たに配送販売用の軽自動車の購入、全館のLED照明入れ替え工事、厨房の魚焼き器の購入等を総額24，426千円で行いました。これらの施設整備や備品購入には、清水基金をはじめとする11，776千円の助成金を活用しました。

就労事業全体の収支差額は、令和5年度3，717千円でしたが令和6年度5，440千円マイナスとなり、9，157千円の減額となりました。

令和6年度は、大規模なパン・フードの改修工事等を行い、赤字となりましたが、今までの積立金等を充当することで対処出来ました。

（2）事業実績

単位：千円

| 事業名 | 具体的な事業内容 | 利用者数（工賃） | 事業収益 | |
|---|---|---|---|---|
| | | R6 | R6 | R5 |
| 清掃業務（環境保全） | ・JR小浜駅トイレ清掃（小浜市より委託）、週12回<br>・四谷公園・南川公園・武道館（アイビックスより委託）各8回/年<br>・小浜住吉館（三宅企画より委託）、毎週火、金<br>・駐車場（駅前・伏原・生守・市内2ヶ所）オーイングより委託　各1回/月 | 8名<br>1,954 | 1,900 | 1,701 |
| 地場業務 | 内職業者　（カワイ、カワイ工場、サンライフ、アサヒ興洋　アオバ、高鳥紙業、若狭塗センター、ヤマックス　エクセルネット）　計9社<br>・箸（箱折・詰め、袋詰め）<br>・扇子・スプーン等雑貨袋入れ<br>藤田園茶舗（茶葉袋詰め） | 8名<br>1,295 | 1,481 | 1,463 |
| パン・フード事業 | パン製造　（約170個/日）<br>移動販売（53か所/週）<br>委託販売（嶺南振興局売店、若狭高校売店　小浜病院売店、小浜市役所売店）<br>フード商品製造、店頭販売（たこ焼き、焼きそば　お好み焼き他　約20パック/日）<br>デザート（ガトーショコラ・マカロン等）移動販売 | 6名<br>2,322 | 10,721 | 10,338 |

単位：千円

| 事業名 | 具体的な事業内容 | 利用者数（工賃） | 事業収益 | |
|---|---|---|---|---|
| | | R6 | R6 | R5 |
| 弁当（給食）事業 | 弁当製造（受注）　（ 100～200 食/日）<br>大口弁当受注販売（小浜市役所、小浜病院<br>健康管理センター、芝浦自販機）<br>委託販売（小浜病院売店、嶺南振興局売店<br>若狭高校売店）<br>※『ふくい100菜ごはん』に認定<br>つみきハウス利用者へのディッシュクックでの食事提供<br>40食　（就労B昼食、グループホーム朝夕） | 6名<br>1,490 | 19,799 | 15,340 |

助成金及び用途一覧（参考）

| 助成団体 | 用途 | 助成金額 | 取得総額 |
|---|---|---|---|
| 社会福祉法人清水基金 | フードセンター改修パン工房解体 | 6，000千円 | 13，593千円 |
| 公益財団法人ヤマト福祉財団 | ミニデッキオーブン等 | 2，800千円 | 3，101千円 |
| 公益財団法人みずほ福祉助成財団 | ハイゼット購入 | 1，000千円 | 1，500千円 |
| 省エネ補助金（施設照明器具LED化） | 施設照明LED化 | 927千円 | 2，041千円 |
| 赤い羽根助成金 | 厨房魚焼き機等 | 310千円 | 419千円 |
| 業務改善助成金 | 除雪機 | 739千円 | 770千円 |

（3）令和7年度に向けた課題

① 利用者の高齢化が進み、平均年齢が45歳となりました。作業能力が低下し継続しての就労が難しい利用者や、体調や事情により毎日の通所が難しい利用者が在籍しており、無理なく継続して働けるよう、個別の状況に応じた支援を行ってまいります。
高齢化や体力・作業能力の変化等、令和7年度は、こうした課題に対し、作業の提供の見直しや、生活介護の利用、創作活動、体力づくりの機会を充実させることで、生活の質の向上を目指し、より利用者に寄り添った支援を実践します。

② 日頃から衛生管理に気を付けて調理を行っていますが、弁当の購入者から注意を受けることがありました。令和7年度は衛生管理を徹底し、前年度同様、HACCPに沿った衛生点検等を行うと共に、食品調理に携わる職員・利用者の検便を行います。また、保健所の衛生指導と内部研修を実施し、衛生意識の向上と安全な食品提供体制の維持に努めます。

③ 利用者の健康診断の結果は、健康状態が改善しディッシュクックの効果が出ていると報告されました。引き続き、ディッシュクックによる個別の食事提供により、健康管理の継続に努めます。あわせて、レクリエーション活動や体力づくりにも取り組み、健康維持に努めます。

④ 「工賃・業務内容向上プロジェクト会議」を令和7年度も継続的に開催し、利用者一人一人に合った業務の提供と見直し、業務の効率化やコスト削減の工夫を重ねながら、物価高騰の影響下でも安定した収益の確保を目指します。また、利用者の工賃の増額を目指して取り組みます。

⑤ 令和6年度、利用者数は30名から2名減員の28名となりました。つみきハウスの活動内容や魅力をより多くの方に知っていただけるよう、ホームページの情報を随時更新し、施設紹介のパワーポイント資料なども活用して広報活動を行い、新規通所利用者の獲得に繋げます。
また、支援学校からの実習生受け入れを行い、保護者や生徒が実際の就労の様子を体験し理解できる機会を提供します。

## 4 グループホームあおぞら1、2

(1) 主な事業実績と課題

グループホームの資金収支の収入については、令和5年度27,768千円に対し,令和6年度は26,268千円となり、1,500千円の減額となりました。その要因として二名の方が長期入院されたことで訓練等給付費収入が令和5年度20,534千円に対し、令和6年度は18,728千円と1,807千円の減額となったためです。

支出については、令和5年度24,618千円に対して、令和6年度は24,671千円となり66千円の減額になり大きな変化はありませんでした。

全体の資金収支差額については、令和5年度の1,158千円に対し、令和6年度は11千円の赤字となり1,169千円の減額となりました。これは、訓練等給付費収入の減額と、制度改正により報酬費が減額されたためです。

(2) 事業実績　　単価:千円

| 事業名 | 具体的な事業内容 | | 利用者数(事業者数) | | 事業費 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | R6 | R5 | R6 | R5 |
| 訓練給付金 | 利用者1人に対して障害区分、GH利用日数により国から支給される給付金<br>(参考)区分3　4,080円/1日<br>※令和5年度は4,710円/1日 | あお1 | 9名 | 9名 | 11,366 | 12,668 |
| | | あお2 | 5名 | 5名 | 7,362 | 7,865 |
| | | 計 | 14名 | 14名 | 18,728 | 20,534 |
| 利用者負担金 | 利用者が負担している利用料<br>水道光熱費・食費・日用品費 | 体験 | 0名 | 0名 | | |
| | | 居住 | 14名 | 14名 | 7,374 | 6,948 |

(3) 令和7年度に向けた課題

① あおぞら2の居住環境の改善を求めて、今富地区への移転を計画していましたが、地元説明会を開催したものの、現地住民の強い反対と、今富地区の自動車の騒音や河川の騒音もあり再度検討したところ計画を中止することにしました。令和7年度も引き続き移転先を検討してまいります。

② 昼間と夜間の支援の引き継ぎが十分でないため、支援に関する共通認識を深める研修会を実施しました。来年度は複数回の開催を予定しており、権利擁護や虐待防止に関する研修も引き続き実施します。また、ラインワークスを活用し、職員間のコミュニケーションをさらに密に図ります。

③ 70代の利用者が治療のため10月から12月にかけて入院され、また、50代の利用者が1月から4月まで入院されました。今後は、転倒防止対策や適切な水分補給などの日常的な入院予防に努めます。

④ ディッシュクックによる食事提供は、令和6年度に健康維持に効果があることが実証され、令和7年度も引き続き継続して提供します。また散歩、筋トレ、エアロバイク等を用いて利用者の健康維持に努めます。

⑤ 現在、デイサービスを利用される方が1名おられ、今後の増加が見込まれます。そのため、介護サービスとの連携をより密にし、支援を充実させます。

⑥ 利用者同士のコミュニケーションを取りやすいように、グループホームで手巻き寿司とカラオケを実施しました。またあおぞら2では食事作りなども行っています。来年度も複数回レクレーションを実施し明るい雰囲気づくりに努めます。

⑦ 火災と、地震を想定した避難訓練を実施しました。来年度も引き続き継続し、速やかに避難できるように取り組みます。

## 5 ホットラインサポートセンターつみき　事業実績と成果

（1）主な事業成果と課題

ホットラインサポートセンターつみきの資金収支の収入ついては、令和5年度29,023千円が令和6年度30,709千円と比べ1,686千円増額となりました。

この内訳としては、介護給付費収入は、令和5年度25,013千円に対し、令和6年度は、26,821千円と1,808千円増額となりました。

これは、同行援護事業が、コロナ禍で減少していたイベント参加や、自粛していた余暇活動が増えたため、令和5年度と比べ1,999千円増額となったものです。

居宅介護事業については、サービス利用件数の減少により、事業費が191千円減額となりました。

次に、支出については、令和5年度26,229千円に対し、令和6年度26,556千円となり、327千円の増額となりました。

サポートセンター全体の資金収支差額は、令和5年度2,710千円に対し、令和6年度2,936千円と226千円増額となりました。しかし、拠点区分の就労部門に700千円繰り出しており、実質3,636千円の黒字となりました。

（2）事業実績

単位：千円

| 事業名 | 具体的な事業内容 | 利用者数 | | 事業費 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | R6年度末 | R5年度末 | R6年度末 | R5年度末 |
| 同行援護 | 弱視、全盲利用者の外出、移動時等の付き添い援護 | 33名 | 32名 | 23,179 | 21,180 |
| 居宅介護 | 利用者への身体介助、家事援助、通院介助 | 31名 | 30名 | 3,642 | 3,833 |
| 計画相談 | 利用者の年間支援計画を作成、モニタリング | 40名 | 40名 | 2,301 | 2,660 |
| 計画相談　児童 | 児童利用者の年間支援計画を作成、モニタリング | 1名 | 1名 | | |
| 移動支援 | 利用者の移動時における付き添い支援 | 22名 | 20名 | 394 | 512 |
| こころの相談 | 毎週金曜日に電話で相談やアドバイスなどの応対 | 10件 | 12件 | 720 | 720 |

（3）令和7年度に向けた課題

① 同行援護事業では、敦賀の利用者の利用時間数が増えているため、今後も利用者の希望に添った安全なサービス提供を行います。

② 居宅介護事業では、通院介助の利用回数が減少しており、高齢の利用者が増えている為、今後も減少すると思われますが、ヘルパーと連携し、安全に通院できるよう努めます。

③ 移動支援事業では、嶺南の市町で協議され、令和7年度から利用単価が増額となると共に、身体介護の区分も設けられました。今後も利用者の余暇活動が安心して楽しめるようなサービスを提供していきます。

④ 年齢に伴い、障害サービスと介護サービスを併用して利用される利用者が増ているため、事業所内や関係機関との連携を密にし、きめ細かいサービスを提供していきます。

⑤ 令和6年3月に行われた同行援護従事者研修会に小浜1名、敦賀2名が参加され、ヘルパー確保に務めることができました。引き続き研修等への参加を促し、人材確保と育成に努めます。